

# あんなとこ、こんなところ

地域の身近な

# 歴史スポット

晩秋を彩る武藏野の風物

## お会式 原田 弘

堀の内お祖師様のお会式、それも戦前の様子を思い出すままに書いてみました。

私の家は青梅街道沿いで、西武電車（旧都電）の車庫の斜め前あたりにありました。

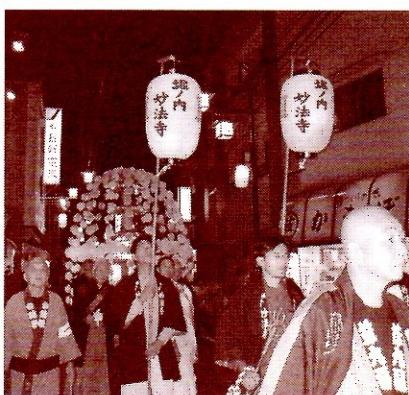
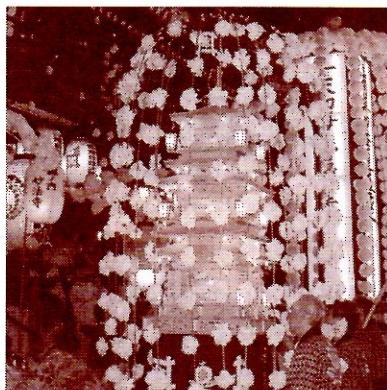
お会式の日は十月十三日と決まっていた。その前日は池上の本門寺のお会式で、この日は日蓮聖人が池上でお亡くなりになつた日なのです。（本年は七百二十五年遠忌になるそうです）

十三日夕食を食べ終るころから通りの西方向つまり荻窪の方から遠雷のような太鼓の音が聞こえて来る。このお会式の日はほとんどの職人衆の家では仕事を休んでいました。

十三日夕食を食べ終るころから通りの西方向つまり荻窪の方から遠雷のような太鼓の音が聞こえて来る。このお会式の日はほとんどの職人衆の家では仕事を休んでいました。

十三日夕食を食べ終るころから通りの西方向つまり荻窪の方から遠雷のような太鼓の音が聞こえて来る。このお会式の日はほとんどの職人衆の家では仕事を休んでいました。

やがて火消しの纏を先頭にその講に属する善男善女の一団があの飾り万灯を押し立て進行して来ます。皆



な太鼓を打ち「南無妙法蓮華經」とお題目を唱え、女性の方は鐘を鳴らしていったのが多かつたような気がする。

大体この日蓮さんの命日で法事な

のだが、喜びに満ち溢れた人々、エネルギッシュな若者が纏をくるくる格好よく廻し、見物人を圧倒してい

たと伝えられている。

一日の大工の手間代で、仕事するより祖師に感謝してご利益を戴きたいということだ。この行事を境に寒さは強まり人々は皆冬支度に入る。お会式の日は綿入れを着たり赤ん坊などねんねこで風邪をひかせないようにしたものです。

妙法寺道も今の様に環七がなかつた時代なのでその混雑と云つたら、身動きも出来ない場所もあり一方通行をして整理しました。



秋にかかわらず桜が咲いたということがららしい。お題目と共に昔の人は「一貫三百どうでもいい」と云つたと伝えられている。

この手間代で、仕事するより祖師に感謝してご利益を戴きたいということだ。

この行事を境に寒さは強まり人々は皆冬支度に入る。お会式の日は綿入れを着たり赤ん坊などねんねこで風邪をひかせないようにしたものです。

妙法寺道も今の様に環七がなかつた時代なのでその混雑と云つたら、身動きも出来ない場所もあり一方通行をして整理しました。



原田 弘 氏

杉並郷土史会会長・(元)日本歴史学会会員・杉並区文化財保護指導員・日本ペンクラブ会員

### セシオン杉並 年末・年始の休館日

#### 休館日 お知らせ カレンダー

- 印:高円寺地域区民センター
- 印:和田区民集会所
- 印:高円寺北区民集会所

1	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6		
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31				

12	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

次号152号は  
1月20日  
発行予定です